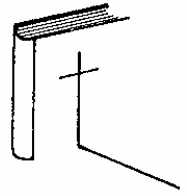


ディボーション質問表



今週の箇所は、エホヤキム王の時代にエレミヤによってなされた託宣（7：1～20：18）の一部です。

27日（月）エレミヤ書 14：1～12 干ばつの災い1

- 1～6節は、神さまの裁きの様子が書かれています。どのような状態でしょうか？
- 7～9節には、民の代わってのエレミヤの祈りが書かれています。エレミヤはどんな事を祈っているのでしょうか？
- 神さまが喜ばれる自制の行いは何でしょう（10節）。 → み言葉に立ってしっかりした決断が出来るようにみことばを蓄えているのでしょうか？

28日（火）エレミヤ書 14：13～22 干ばつの災い2

- エレミヤは神さまから民のために祈る事を禁じられていました（11節、7：16、11：14）。それにも関わらず彼が祈っている言葉が19～22節に書かれています。どんな事を祈っているのでしょうか？
- 13～22節を読んで真の預言者とはどのようなものか、発見してみましょう。 → 耳触りのよい事ばかりいって、神さまの御心を無視した歩みはしていないのでしょうか？ → 自分の欲のままに生きる人のために嘆く、あわれみの心に満ちているのでしょうか？ 十字架を黙想してみましょう。

29日（水）エレミヤ書 15：1～9 干ばつの災い3

- 「四つのしゅるいのもので罰する」（3節）と神さまが言われます。だれも裁きからのがれられない、という厳しい言葉です。これによって、神さまの戒めが絶対的な原理原則であることを言い表しています（3節）。 → 悲しみを覚えていることで、自分が原理原則をやぶっているがゆえに体験していることはないのでしょうか？
- 4節に出てくるマナセの生涯は、Ⅱ列王記21：1～18節に書かれています。彼の生涯を思いながら、ここの箇所を読んでみましょう。

30日（木）エレミヤ書 15：10～21 エレミヤの苦しみと神の支え

- み言葉を破っていると警告しても、神さまの裁きが来ると宣言しても、とりなしても、逆に人々に陰謀を企てられ霊心ともに疲れ果てたエレミヤのなげきが10～21節で読み取れます。 → 私をいつもとりなしてくださっている、聖霊さまを悲しませてはいないのでしょうか？ → 人を愛しとりなしたり、仕えたりして疲れていないのでしょうか？
- 15～18節にエレミヤの祈りがまた出てきます。ここでは彼は何を祈っているのでしょうか？

31日（金）エレミヤ書 16：1～13 預言者の孤独

- 預言者に出された3つの禁止令はどのような内容でしょうか（1～13節）？ ※どれもコミュニティの社交では最も重要な事柄です。 → 神の子としての塩気、聖別された品性と生活をしているのでしょうか？
- 6節にある「身を傷つけず、髪もそらない。」は、死者に対する悲しみを表わす表現で、当時ユダでも一般的に行われていたと思われます。しかし、レビ記19：28、申命記14：1では禁止されました。

9月1日（土）エレミヤ書 16：14～21 新しい出エジプト

- エジプトで奴隷だったことから救済された偉大な神さまのみ業に匹敵するみ業がなされる、と約束してくださっています。それは何でしょうか（14～18節）？
- 人の常識や、人の知恵、習慣に優るものは何ですか（19～21節）？ → 神さまの凝らしめを体験するかもしれないが、必ず望みと祝福があることを確信しているのでしょうか？
- 21節の最後にある「彼らは、わたしの名が主であることを知る。」という言葉を味わってみましょう。あなたはこれを読んでどう思いますか？